

# 市の家計簿

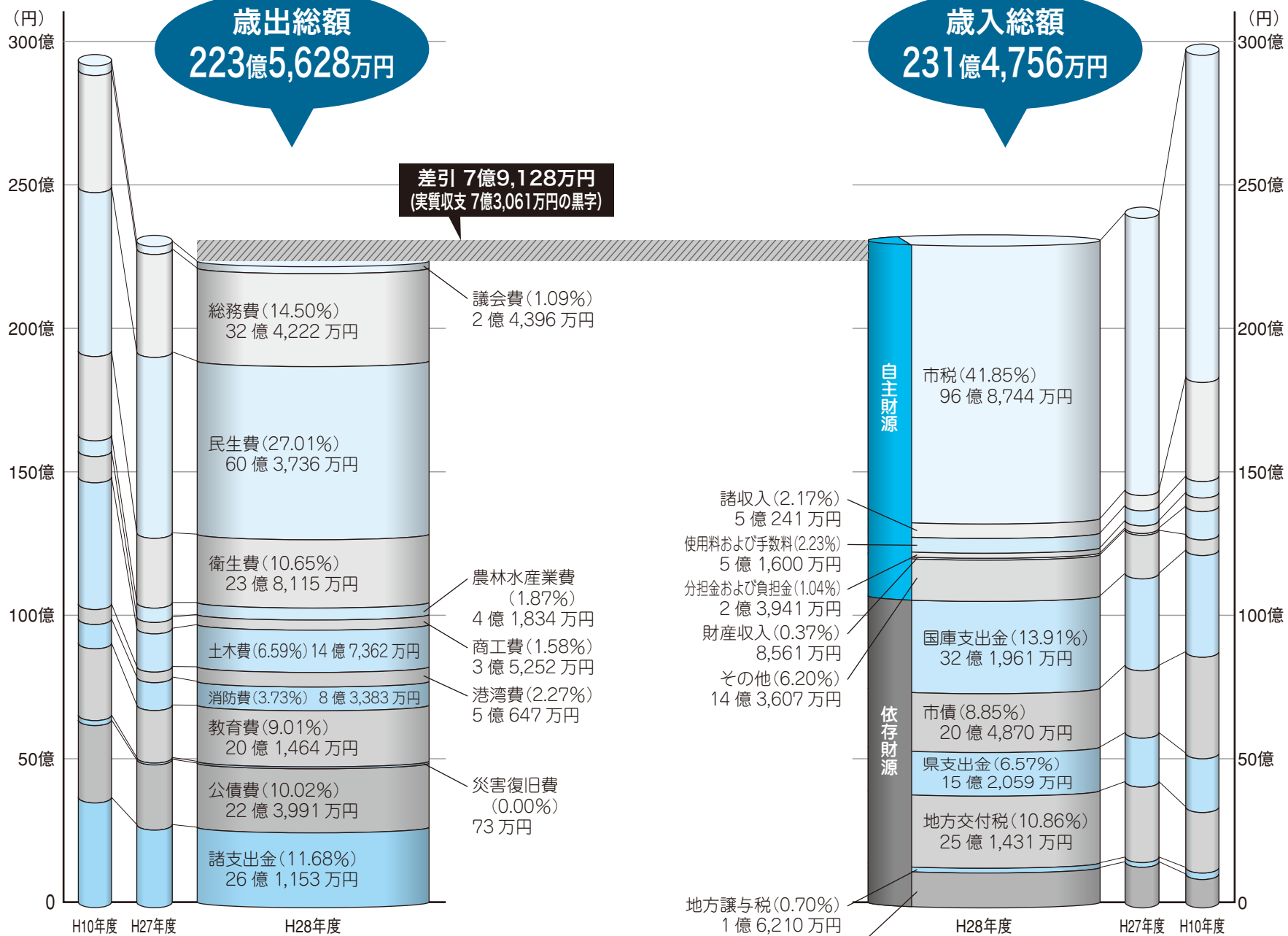
市民のみなさまからの税金等が昨年度どのように使われたか、平成28年度決算報告、平成28年度決算より算定した健全化判断比率、平成29年度上半期業務状況（企業会計）、職員の給与・定員状況を掲載いたします。

## 平成28年度 決算報告

### 一般会計

#### 人口増対策・防災対策に重点

市税を主な財源として、学校、道路などの建設・整備をはじめ、福祉、消防、教育など市の行政運営の基本的な経費を計上した会計です。平成28年度決算については、地方消費税交付金の落ち込みや子育て支援施設（まろっ子ひろば）、同報系防災行政無線、消防救急デジタル無線施設の整備が完了したことにより、歳入・歳出額ともに前年度に比べ大幅な減少となっています。結果、平成28年度の歳入は231億4,756万円、歳出は239億5,628万円、差引き7億9,128万円となり、この中には翌年度へ繰り越した事業の財源6,067万円が含まれていることから、実質収支は7億3,061万円の黒字決算となっています。



平成28年度中に  
市民1人あたりに使われた金額  
(人口 54,054 人(平成 29 年 4 月 1 日現在)で算出)

**413,592円** (422,096円)

費目ごとに見てみると...

- 総務費 59,981円 (65,662円)
- 民生費 111,691円 (115,425円)
- 衛生費 44,051円 (44,514円)
- 土木費 27,262円 (24,383円)
- 教育費 37,271円 (34,664円)
- 公債費 41,438円 (41,415円)
- その他(諸支出金、消防費、商工費など) 91,898円 (96,033円)

○内の矢印は平成27年度決算と比較した増減を表しています。  
( )内の数字は平成27年度決算。

### 用語解説

#### 歳入

**自主財源** 市町村が自らの手で徴収または収納できる財源

**依存財源** 国や県から交付されたり割り当てられるものなど

市税 市民税、固定資産税、軽自動車税など

使用料および手数料 施設やサービスの提供で得るお金

分担金および負担金 保育所や施設入居者の負担金など

その他(自主財源) 寄附金、繰入金、繰越金

市債 道路や学校などを整備するために借り入れたお金

国庫支出金、県支出金、地方交付税、地方譲与税 国や県から交付されるお金

その他(依存財源) 利子割交付金、地方消費税交付金、ゴルフ場利用税交付金、自動車取得税交付金、国有提供施設等所在市町村助成交付金、交通安全対策特別交付金、地方特例交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金

#### 歳出

**議会費** 議会の運営など

**総務費** 総務、企画、財務、国際交流など

**民生費** 児童福祉、高齢者福祉、障がい者福祉など

**衛生費** 検診、予防接種、環境保全、墓地整備など

**農林水産業費** 農業、水産業の振興

**商工費** 商工業、観光振興、消費者や労働者の対策など

**土木費** 道路や公園、住宅の整備など

**港湾費** 港湾や漁港施設などの建設、維持管理

**消防費** 消火、救急活動、防災対策など

**教育費** 学校、公民館、図書館等、教育施設の維持、整備など

**災害復旧費** 災害復旧に要する経費

**公債費** 施設整備などの借入金の返済

**諸支出金** 普通財産取得費、特別会計繰出金、貸付金など

本市におきましては、今後とも行財政改革を積極的に推進し、限られた財源の中で「最少の経費で最大の効果」があげられるよう効率的な市政運営を進めていきます。



特別会計

特定の歳入をもって特定の事業を行う場合など、他の会計と区分して経理する必要がある場合には、法律や条例に基づいて設置しているものです。平成28年度の9の特別会計の決算状況は、次のとおりです。

会計名	歳入	歳出
国民健康保険	74億1,265万円	74億8,587万円
与島診療所	539万円	4,274万円
港湾整備事業	7,984万円	206万円
王越診療所	1,715万円	1,715万円
下水道事業	12億4,186万円	12億3,579万円
坂出駅北口地下駐車場事業	9,832万円	9,832万円
介護保険	55億8,036万円	54億8,171万円
介護保険介護予防支援	5,459万円	5,459万円
後期高齢者医療	8億6,550万円	8億6,459万円

Q 坂出市の財政状況は？

～平成28年度決算により算定した健全化判断比率等について～

平成19年6月に「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が制定されました。この法律は、健全化判断比率等の財政指標を設け、その比率に応じて早期(経営)健全化基準(イエローカード)と財政再生基準(レッドカード)が定められています。平成20年度(平成19年度決算)から健全化判断比率等を公表し、平成21年度(平成20年度決算)からは、健全化判断比率等のうちいずれかが基準以上の場合は、財政健全化計画等の策定が義務付けられています。本市の健全化判断比率と資金不足比率は、下表のとおり全て基準を下回り、本市の財政状況が「健全段階」であることを示す結果となりました。今後とも、行財政改革実施計画を着実に実行し、効率的な財政運営を行ってまいります。

健全化判断比率

本市の健全化判断比率は、すべて基準を下回りました。

(単位 %)

健全化判断比率	平成28年度決算	早期健全化基準	財政再生基準	用語の説明
実質赤字比率	— (▲5.39)	12.90	20.00	一般会計等の実質的な赤字額の標準的な収入に対する割合(財政運営の深刻度を示す)
連結実質赤字比率	— (▲43.30)	17.90	30.00	全会計の実質的な赤字額の標準的な収入に対する割合(地方公共団体全体としての運営の深刻度を示す)
実質公債費比率	12.2	25.0	35.0	一般会計等の実質的な借入金の返済額の標準的な収入に対する割合(資金繰りの危険度を示す)
将来負担比率	88.3	350.0		一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の残高の標準的な収入に対する割合(将来負担の程度を示す)

資金不足比率

本市の資金不足比率は、全特別会計において、基準を下回りました。

資金不足比率とは

各公営企業の資金不足額の事業規模に対する割合で経営状況の深刻度を示します。



(単位 %)

特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準	特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
水道事業	— (▲95.4)	20.0	下水道事業	—	20.0
市立病院事業	— (▲80.8)		坂出港港湾整備事業	— (▲410.2)	

※比率が算定されない場合は「—」で表示し、参考に黒字(資金剰余)の比率を「▲」で表示しています。

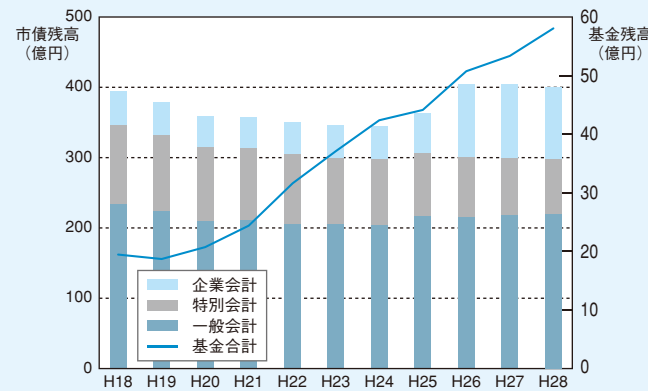
Q 坂出市の預貯金と借入金はどのくらい？

～基金と市債～

坂出市の預貯金にあたる基金残高は、平成28年度末現在、58億523万円となっています。

一方、借入金にあたる市債残高は、平成28年度末現在、399億7,790万円(一般会計219億3,754万円、特別会計79億1,325万円、企業会計101億2,711万円)です。

市民1人あたり 預貯金 10万7,397円  
借入金 73万9,592円



貸借対照表 (平成29年3月31日)

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	73億6,941万円	固定負債	37億4,360万円
流動資産	15億6,249万円	流動負債	6億6,514万円
		繰延収益	8億3,622万円
		資本金	17億2,025万円
		剰余金	19億6,669万円
合計	89億3,190万円	合計	89億3,190万円

損益計算書 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

費用の部		収益の部	
営業費用	11億3,567万円	営業収益	12億2,470万円
営業外費用	7,893万円	営業外収益	1億826万円
当年度純利益	9億1,709万円	特別利益	7億9,873万円
合計	21億3,169万円	合計	21億3,169万円

給水栓数 25,184栓 配水量 7,621,993m<sup>3</sup>

水道事業

平成28年度の事業実績は給水栓数25,184栓(前年度比0.59%増)、給水人口53,954人(0.99%減)、配水量7,621,993m<sup>3</sup>(4.03%減)となりました。また事業収支においては、地方公営企業会計制度改正に伴い、修繕引当金を全額取崩し、特別利益に計上した結果、事業収益21億3,169万円(59.11%増)、事業費用12億1,460万円(2.57%増)で9億1,709万円の純利益を生じ建設改良積立金に9億1,000万円を計上しました。なお主な建設改良工事として公共事業小山町配水管布設替工事で5,397万円など、配水管整備事業で老朽鉄管の布設替等2億4,752万円を実施しました。

貸借対照表 (平成29年3月31日)

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	71億4,319万円	固定負債	66億8,925万円
流動資産	43億1,222万円	流動負債	9億1,166万円
		繰延収益	9億2,987万円
		資本金	20億1,125万円
		資本剰余金	859万円
		利益剰余金	9億479万円
合計	114億5,541万円	合計	114億5,541万円

損益計算書 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

費用の部		収益の部	
医業費用	48億7,443万円	医業収益	48億2,930万円
医業外費用	2億4,847万円	医業外収益	4億4,251万円
特別損失	3億8,024万円	特別利益	2,036万円
当年度純損失	2億1,097万円	当年度純損失	2億1,097万円
合計	55億314万円	合計	55億314万円

延べ患者数 入院 51,670人 外来 145,822人

市立病院事業

平成26年12月より新病院に移転し、平成29年12月で丸3年が経ちました。平成28年度では、全自動血液凝固分析装置、デジタル乳房X線撮影装置など必要な医療機器を購入し、医療機能および療養環境の向上を図りました。平成28年度の業務実績は、入院患者51,670人、外来患者145,822人で、入院患者は前年度に比べて489人増、外来患者は7,865人増となりました。また、事業収支の状況は、医業収益が48億2,930万円(9.1%増)、医業費用が48億7,443万円(8.1%増)で、これに医業外収支や旧病院除却費用などを加えると、2億1,097万円の純損失が生じました。

平成29年度上半期業務状況(企業会計)

平成26年度より新地方公営企業会計基準を適用しています。

市立病院事業 貸借対照表 (平成29年9月30日)

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	75億6,354万円	固定負債	66億8,626万円
流動資産	34億1,699万円	流動負債	4億7,035万円
		繰延収益	8億6,116万円
		資本金	20億1,125万円
		資本剰余金	859万円
		利益剰余金	9億4,292万円
合計	109億8,053万円	合計	109億8,053万円

損益計算書 (平成29年4月1日～平成29年9月30日)

費用の部		収益の部	
医業費用	24億1,016万円	医業収益	24億8,947万円
医業外費用	1億1,710万円	医業外収益	7,728万円
特別損失	570万円	特別利益	434万円
当年度純利益	3,813万円		
合計	25億7,109万円	合計	25億7,109万円

※一般会計および特別会計の平成29年度予算執行状況については、市ホームページ上で公表しています。

水道事業 貸借対照表 (平成29年9月30日)

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	73億4,343万円	固定負債	37億4,360万円
流動資産	12億8,838万円	流動負債	3億948万円
		繰延収益	8億1,756万円
		資本金	17億2,025万円
		剰余金	20億4,092万円
合計	86億3,181万円	合計	86億3,181万円

損益計算書 (平成29年4月1日～平成29年9月30日)

費用の部		収益の部	
営業費用	5億2,248万円	営業収益	6億946万円
営業外費用	3,770万円	営業外収益	2,496万円
当期純利益	7,424万円		
合計	6億3,442万円	合計	6億3,442万円

民間の会社のように、その事業の収入で支出をまかなう独立採算事業で本市では水道事業と市立病院事業があります。